



九州大学

大学院経済学府

産業マネジメント専攻

(九州大学ビジネス・スクール：QBS)

MBA

Master of Business Administration

PROGRAM

Kyushu University

Business School

九州大学ビジネス・スクール MBA プログラム / 専門職学位課程

2026-27

九州大学ビジネス・スクール(QBS)とは

九州大学ビジネス・スクール(正式名称:九州大学大学院経済学
府産業マネジメント専攻、略称:QBS)は、2003年に九州初のビジ
ネス・スクールとして誕生し、これまで899名の修了生を輩出してきま
した。まずは、QBSの特徴をご紹介します。

育成する人材像

QBSは、「経営と産業技術の知見をもって変革をリードし、アジア
で新たな事業価値を創造する、国際的なビジネス・プロフェッショナ
ル」を育成することを目的としています。

経営と産業技術の知見を体系的に備え、それを自在に活用しなが
ら、所属する組織(営利・非営利を問いません)の先頭に立って変革
をリードする。そして、九州・日本を超えアジアを見据えたうえで、新た
な事業価値の創造にチャレンジする。こうした、これからの時代を切り
拓く国際的なビジネス・プロフェッショナルをQBSは育成しています。

理論と実践の融合を目指した 教育プログラム

QBSでは、アカデミックな研究を専門とする教員とビジネスの実務
経験を有する教員が協力して教育に従事しています。QBSは、「理論
と実践の融合」を重視しており、世界最先端の経営理論に触れるだ

けではなく、それを如何に自身の仕事に適用するかを考え、体得する
機会を提供しています。

カリキュラムは、基本的な科目(MBAベーシック)に加えて、「資
源・組織分野」、「市場・戦略分野」、「金融・財務分野」、「アジア分
野」、「MOT (Management of Technology) 分野」の豊富な選択
科目から自身のキャリアプランに沿った学習計画を策定することが
できます。1学年45名というコンパクトなサイズであることから、学生
一人ひとりに担任教員がつき将来のキャリアパスに向けた履修相談
を行うことができます。

プログラム修了者には、「経営修士(専門職)」、すなわち世界的に
通用するMBA (Master of Business Administration)の学位が
授与されます。

アジアフォーカス

世界の成長センターであるアジアの発展を共有し、ともに繁栄し
ていくことは日本にとって大変重要であり、そうした動きをリードでき
るビジネス・プロフェッショナルの存在が不可欠です。九州は、歴史的
にも地理的にもアジアのポータルであり、QBSはアジア屈指のビジ
ネス教育拠点でありたいと願い、アジア関連のテーマや科目を重点
配置しています。

MBA PROGRAM

Kyushu University
Business School 2026-27

CONTENTS

新たな事業価値を創造する 国際的なビジネス・プロフェッショナルの育成	03
働きながら学ぶ	05
QBSの国際展開	06
QBSの社会連携	07
総合大学の強みを活かした教授陣	08
学生の声	12
修了後も協働する人的ネットワーク	14
時間割	15
開講科目と修了要件	17



希望する学生にはアジア各国提携校への交換留学の道が開かれています。また、毎年短期交換留学生を受け入れており、クラスは国際色豊かで、授業外でも様々な交流機会を得ることができます。

総合大学ならではの フィールドの広さ

QBSの学生には、QBSの科目だけではなく、総合大学としての九州大学が提供する幅広い領域での学習機会が提供されています。

2022年度から、芸術工学府およびQREC(九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター)と連携して、デザインの力を駆使し、事業機会を発見して新たな価値を創造できる人材を育成するための専修トラック(DBEX)がスタートしています。



経済学府長

大西 俊郎

Toshio OHNISHI

QBSの一流の教授陣のもとで国際的なビジネス・プロフェッショナルを目指しましょう。QBSの教育は最先端のビジネス研究や経営理論を反映された密度の濃いものになっています。



産業マネジメント専攻長

目代 武史

Takefumi MOKUDAI

正解のない時代に必要なのは、自ら問いを立て、行動し、学び続ける力です。QBSで、その力を磨き、一生の仲間と出会ってください。ともに、未来を切り拓きましょう。

入学選抜

【一般選抜】(募集人員 40数名)

出願時に企業・官公庁等において原則として2年以上の実務経験を有する社会人又は出願時に大学または大学院に在学する者を対象として、第1次試験では出願書類による審査により学習能力、学習意欲、将来性等を精査します。第2次試験(第1次試験合格者のみ)では、日本語での口頭試問による審査として、資質、将来性、意欲、語学力(外国籍の者)等を精査します。また英語授業への適性を審査するため、英語試験を実施します(一定以上の英語能力を証明する書類を提出できる者は免除)。選抜に当たっては、個々の能力に加えて教育効果を高めるための多様性、国際性の確保も判断基準に加えます。

【特別選抜】(募集人員 若干名)

特別選抜では、変革に関する問題意識を有し、新たな事業価値の創造に挑戦する意欲をもって、技術経営(MOT)やアジア・ビジネスに関する専門知識の学修に取り組み、価値創造の構想を深化させるとともに、構想を実行に移す意思を持つ学生の募集を重点的に行います。選抜は、書類(学習計画書および課題論文)による審査と日本語での口頭試問による審査により行います。

※入試の詳細は、別途公表される募集要項をご参照下さい。

大学基準協会より、『経営系専門職大学院認証評価』の適合認定を取得
九州大学ビジネス・スクールは、大学基準協会より、『経営系専門職大学院認証の適合認定』(2024年4月1日発効)を取得しています。

Association Japan University Accreditation since 1947
BUSINESS SCHOOL ACCREDITED 2024.4~2029.3

経営と産業技術の知見をもって変革をリードし、 アジアで新たな事業価値を創造する、 国際的なビジネス・プロフェッショナルの育成

修了後は経営のプロに

本課程修了者には、最先端の経営理論に関する知識とそれを実務に活用できる力を有することの証として、世界的に通用するMBA(Master of Business Administration)の学位が授与されます。

アジアのリーダーを目指します

アジアのポータルである九州のビジネススクールとして、特にアジアで活躍できるビジネス・プロフェッショナルの育成を強く意識し、アジア関連のテーマや科目を重点配置するとともに、アジアの有力ビジネススクールとの間で交換留学や学生交流を実施しています。アジアでのビジネスのダイナミズムを肌で感じながら学修する環境が整えられています。

最新技術から事業価値を生む人材に

技術立国・日本の中でも九州はそのフロンティアに立っています。九州がアジアの発展の先導役を果たしていく上で鍵となるのは、産業技術です。九州には様々な技術の集積がありますが、QBSがビジネス・スクールとして重視するのは、技術を事業価値に結びつける、すなわちMOT(Management of Technology)です。QBSのMOTは、総合大学をバックに持つ強みを活かし、技術とビジネスを結ぶ特色ある教育プログラムとなっています。

デザインの力をビジネスに組み込む

近年のビジネスにおいては、デザインの力を駆使しながら事業機会を発見し新たな事業価値の創造に挑戦するアントレプレナーシップの重要性が高まっています。こうした傾向を捉え、2022年度から新たにデザイン・ビジネス・アントレプレナーシップが融合した教育を三部局連携(QBS、芸術工学府、QREC)の枠組みで提供するDBEX(デザイン×ビジネス×アントレプレナーシップ専修トラック)を開始しています。



アジアの有力ビジネス・スクールとの間で、
交換留学(半年間)や
学生交流(3~4日)を実施しています。



アジア提携校でのワークショップ

ASIA

MOTに立脚した事業価値創造の
公開セミナーや研究会を行っています。



事業価値創造のワークショップ

MOT

デザインなど異分野の融合基盤を持つ
サーティフィケート・プログラムを
開始しました。



合同ゼミでの演習

DBEX

新たな事業価値創造



ビジネススペースコンペティション



ビジネスプラン・コンテスト



各種コンテストへの出場や起業

働きながら学ぶ

仕事が学びに、学びが仕事に

仕事をしながら学ぶことで、QBSで学んだ事柄をビジネスの現場で即座に試すことができ、「理論と実践」を身をもって経験することが可能となります。また、実践することによって得られた疑問を講義に持ち込んで討議するという、理想的なサイクルの中で学びが定着していきます。様々な業界の多様な職種で実際に活躍する学生が集まって、それぞれの立場や経験から意見を戦わせることにより、学習効果の向上が図られています。全国の教育界・産業界から集まった一流の教授陣が、現場感覚にあふれた講義を行っています。

QBSは社会人を大切にします

「仕事を学びに活かし、学びが仕事に活きる」が基本的な考え方です。現在のキャリアを中断させることなく仕事と学びを両立できるよう、QBSは社会人を様々な角度からサポートしています。

専門実践教育訓練 給付金制度

QBSの講座は厚生労働大臣により指定された教育訓練プログラムです。一定の条件を満たした場合、課程修了後に授業料・入学金の最大80%がハローワークより還付されます。

平日の夜間開講(博多) 週末の昼間開講(伊都)

社会人の仕事に支障のないよう平日(月～金)は交通至便な博多教室(JR九州博多シティ)で18時30分から90分の講義2コマを行い、土曜日は伊都キャンパスで講義が行われます。また非常勤講師による集中講義やビジネス界の最先端で活躍される方々によるセミナー等も週末に開催します。

交換留学制度

大学間の協定に基づくアジアの主要ビジネススクールとの交換留学制度です。QBS学生は2年次前期にアジアのビジネススクールに滞在し、アジアのビジネススクールの学生は後期にQBSに滞在します。留学先では英語による講義を履修できます。

長期履修制度

標準的な履修期間は2年ですが、多忙な業務に合わせて社会人学生は標準年限を超えて3年間にわたる教育課程を選ぶこともできます。(2年間分の授業料は3年に分割して納入いただけます)

指導教員制

1年次には、担任教員のもとで将来のキャリアパスに向けた勉学テーマの検討を行います。2年次には指導教員のもと、専門性の確保やキャリアパスとの整合性を高めます。

e-learning

出張やその他の理由から講義に出席できない場合は、インターネットにアクセスすることにより後日、講義内容をフォローすることが可能です。

自習室・図書室

伊都キャンパス経済学部棟には、終日利用可能なQBS学生専用の自習室とロッカーを備えています。また、博多駅教室にも自習室、図書室、ロッカーを備えています。その他、学生サロンやITルームもあります。

リカレント聴講制度

ビジネスに関する知識や情報は日々進歩します。QBSの修了生は修了した後も、QBSの講義を聴講生として受講し、知識の刷新を行うことができます。

International Expansion

QBSの国際展開

アジアにフォーカスした独創的な教育プログラム

QBSはアジア屈指のビジネス教育の拠点を目指して、ダイナミックかつ急速な発展を遂げているアジア各国の有力ビジネス・スクールとの交流を推進しています。アジアの玄関口である、福岡という立地を生かした、QBSならではの独創的な教育プログラムが展開されています。

AAPBS加盟

QBSは2015年5月よりアジアパシフィックのビジネススクール組織であるAAPBS (Association of Asia-Pacific Business Schools) に加入しました。AAPBSにはアジアを中心としてアメリカ・ヨーロッパを含む21カ国から111のビジネススクールが参加しています。QBSのAAPBSの加盟により、多くの有力ビジネススクールとイベントでの交流が可能となっています。



外国人客員教授の招聘

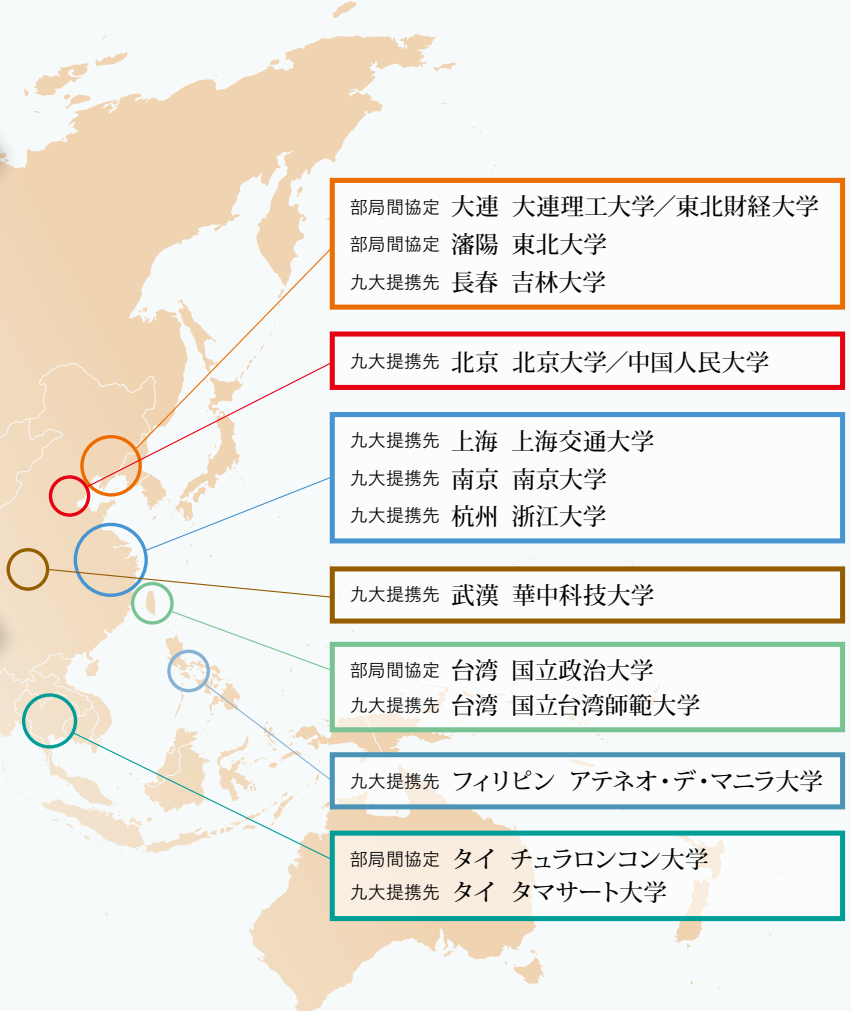
QBSのアジア関連科目である「アジア・ビジネス戦略」は、アジアの提携校から教員の派遣を受け、開講されています。2004年度より、浙江大学、復旦大学、华中科技大学、東北大学、大連理工大学、チュロンコン大学、国立台湾師範大学、南京大学、アテネオ・デ・マニラ大学など、通算22名の外国人教員が招聘されており(2026年6月現在)、福岡にいなながらアジアビジネスのダイナミズム、経営戦略を学ぶことができます。

海外スタディツアー

QBSでは1年に2回(夏期・春期休暇中)スタディツアーを行っています。提携校のビジネス・スクール学生との意見交換や、現地の企業や工場見学をはじめとする現地視察によってアジアの成長を目の当たりにすることができます。提携校の教員による講義や提携校からのケースを使った学習を通じて、現在おきている問題を解決する方略を学びます。海外スタディツアーは、2005年3月の上海交通大学を端緒に、通算38回開催されており(2026年6月現在)、交流の幅や質はますます高まっています。2026年3月、中国の南京大学を訪問し、学生間交流を行いました。

交換留学の機会

QBSでは、大学間および部局間の学生交流協定に基づいて、学生が中国、タイをはじめとする海外の提携ビジネス・スクールへ原則として2年目の前期に半年間留学するプログラムを実施しています。例年、数名の学生が留学し、専門科目の習得、異文化コミュニケーション力の向上に励んでいます。提携校からの交換留学生の受入は9月末から翌年の2月までで、2007年度から例年8~15名程度受け入れています。2025年度は中国から6名、フィリピンから2名、タイから2名、台湾から1名が来日し、活発な交流が行われました。



QBSの社会連携

グローバル化の進展や技術革新によって、経営環境はより複雑化・高度化の一途をたどっています。一方、視点を変えればゲーム・チェンジの機会にあふれた時代にあるともいえます。QBSでは、様々なイベントや媒体を通して、新たな事業価値の創造につながる知を発信しています。

外部コンペティション

QBSでは学生が主体となってケース・コンペティション等に積極的に参加しています。2024年度は「日本ビジネススクール・ケース・コンペティション（略称、JBCC）」に3チームが参加。事務局作成のケース（日本企業が抱える問題がテーマ）を題材に、チームで1つのアウトプットを出すため、限られた時間の中で、情報収集～課題抽出～戦略構築まで授業で学んだことを総動員しながらプランの組み立てを行いました。他の国内MBA生と交流ができるよい貴重な機会にもなりました。



また、橋爪 海さん(24期生)が代表共同創業者を務めるスタートアップ「Booon」が、Forbes 30 Under 30 Asia 2026 Social Impact部門に選出。同社は食品廃棄物をミールワームの飼料とし、水産養殖向けの昆虫タンパク質に転換する循環型経済モデルを構築し、サステナブルな水産業の実現に向けた革新的な取り組みが世界的に評価されました。

短期エグゼクティブ・プログラム



QBS社会連携事業として、2010年度より「短期エグゼクティブ・プログラム」を開講しています。これは、40～50歳代を中心とした大企業、中堅企業、金融機関、公的機関等の経営幹部の方を対象にMBAコースのエッセンスについての短期集中研修を行うものです。約4ヶ月間でMBAのエッセンスに加えて最新のビジネス知識を修得できるプログラムとなっています。

MBA成長戦略フォーラム

2016年度より「QBSフォーラム」から「MBA成長戦略フォーラム」と名称を変更し、従来行われていたプロジェクト演習論文の発表はもちろん、QBSで得られた経験や成長、修了後の活躍に新たに焦点をあてたフォーラムへと生まれ変わりました。現役生や修了生による講演も行われ、QBSの魅力を広く社会へ向けアピールする場となっています。



QBSトップセミナー

第3回QBSトップセミナーは、セルソース株式会社代表取締役社長CEOの澤田貴司氏を招聘して開催しました。澤田氏は、ファーストリテイリングでフリースの大ヒットを牽引し、ファミリーマートでは大規模な経営改革を指揮するなど、豊富な実績を有されています。教員や在校生を交えたパネルディスカッションでは、現場起点の経営改革をめぐって活発な意見交換が行われ、会場は終始熱気に包まれ、参加者にとって大きな学びと満足感を得られる機会となりました。



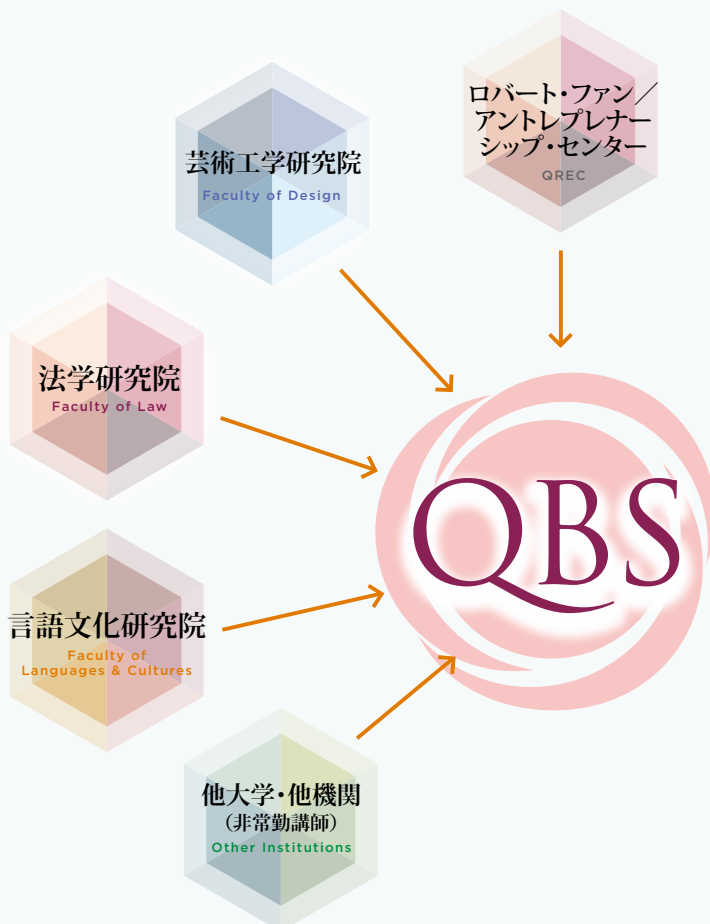
総合大学の 強みを活かした教授陣

Faculty Introduction

経済学府産業マネジメント部門(QBS)には現在、研究者または実務家として一流の業績を有する教員が在籍しており、最先端の経営学の英知を教授しています。また、総合大学としての九州大学の強みを活かし、他部局・他部門より各分野をリードする教員がQBSの教育に参画し、多様な学びのニーズに対応しています。

専門職大学院コンソーシアム

九州大学にある4つの専門職大学院(ビジネス・スクール、ロー・スクール、医療経営・管理学専攻、実践臨床心理学専攻)が2006年4月にコンソーシアムを設立し、相互連携による新たな教育・研究プログラムを展開しています。現在は、大学院間での相互履修制度、市民公開講座などを実施しています。



QREC

(九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター)

2010年12月の設立以来、QREC(九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター)は、多様なアントレプレナーシップ関連科目やプログラムを提供しており、多くのQBS生が関連科目を履修しています。

QREC

検索

芸術工学研究院

芸術工学研究院との連携により、2022年度から新たにサーティフィケート・プログラム“DBEX(デザイン×ビジネス×アントレプレナーシップ専修トラック)”がスタートしました。芸術工学府やQRECの科目を履修し所定の単位を修得した場合、MBAに加えてDBEXの修了証が授与されます。



Faculty Introduction

総合大学の強みを活かした教授陣



教授
高田 仁
実務家教員
ビジネスにおける
競争優位性特論
産学連携マネジメント

MOTのノウハウを徹底的に指導

産学連携やMOTに立脚した企業の競争優位性に関する講義を担当しています。MOTとは、要するに技術のビジネス化のことです。講義では、技術マネジメントに関するノウハウを細やかに指導していきます。大学の技術を活用して新事業を興したい人、技術者で且つ経営者になりたい人、技術を活用して起業したい人、大歓迎です。自分をひとまわり成長させてみませんか。



教授
小城 武彦
実務家教員
コーポレート・ガバナンス
と監査
マネジメント・コントロール

本気で経営者を目指す方に

本気で経営者を目指す方を歓迎します。経営者に必要なものは何か。私は、強い「知」(理論・ロジック)と強い「軸」(リーダーシップ・当事者意識)だと考えています。クラスでは、上場企業3社、スタートアップ2社(うち1社は公的企業)で代表取締役を務めた経験を共有しながら、今後の経営者のあるべき姿と一緒に考えていきたいと思います。



教授
目代 武史
生産管理
企業戦略

日本企業の強みを追求

工場の海外展開やモノのインターネット化(IoT)は、日本のものづくりのあり方を見直す契機となっています。新興国企業や欧米企業との競争に直面し、日本企業はどこに強みを求めるべきでしょうか。現場のものづくり能力強化とともに、強い現場を活かす本社の戦略的構想力が問われています。こうした課題に応えるため、最新の経営理論の学習に加え、ワークショップやケースメソッドによりクラスメート、教員との討論を通じて、判断と行動を支える知的基盤づくりを目指します。



准教授
佐藤 亜希子
実務家教員
国際経営
アジアの産業と企業

世界を知ることは、己と日本を知ること

教育では、国際経営、アジアの産業と企業を担当しています。研究では、国際ビジネス、戦略経営、多国籍企業、新興国市場、制度問題を専門として、実証的アプローチに取り組んでいます。世界は広く、沢山のビジネスチャンスが転がっています。地方の日本の中小企業も世界に進出する時代です。しかし、チャンスもリスクも国際規模になる為、しっかりとした事前準備、綿密な国際化戦略を練ることは必須です。ダイナミックな国際ビジネスの世界を積極的に追求していきたい人、大歓迎です。国際ビジネスの世界を一緒に探求してみませんか。



講師
碓 邦生
リーダーシップ論
組織行動

未来を創造するリーダーシップの学びと実践

DXやグローバル化など、目まぐるしく変化するビジネス環境で、私たちの働き方や仕事の価値観が大きく変化しています。組織行動論とは、優れた成果を生み出すために有用な個人や集団の行動に着目した研究領域です。取り扱われる研究テーマは、リーダーシップやモチベーションのようにビジネス用語となっているものもあります。しかし、多くのビジネス用語と学術用語では概念が異なります。このような概念を体系的に学び、実務に生かす応用力を身につけることは、これからのビジネスにおける付加価値を高めることにつながるでしょう。



助教
柿野 耕平
新産業創出
ビジネス統計

正しいデータ解釈に基づく意思決定を

デジタル化の急速な進展により、ビジネスのあらゆる場面で膨大なデータが生成・蓄積されています。IoTやAIの普及により、その量は加速度的に増加しています。また、データ収集や分析ツールの発達で、専門家でなくても容易にデータにアクセスできる時代になりました。しかし、データの羅列を眺めているだけでは、価値ある情報を得ることはできません。講義では、統計学の基本的な考え方や手法を学び、データから適切な情報を引き出すスキルを身につけていただきます。実データを用いた演習で、実践的なデータ活用力を養成し、データ主導の意思決定ができる人材の育成を目指します。

産業マネジメント教員紹介

新たな事業価値を創造する、ハイレベルな人材の育成には、教育・研究の両面において卓越した指導者が教壇に立たねばなりません。QBSの専任教員は研究者または実務家として一流の実績を有しています。毎年多くの修生がQBSでの学びに高い満足度を示しており、社会において顕著な活躍がみられます。日々の講義では、九州大学が誇る日本屈指の教育・研究環境のもと、従来の枠組みを超えた英知が、教員と学生との活発な議論を通して創造されています。この「理論と実践の融合」こそ、世界に通用する経営プロフェッショナルの育成に不可欠であると、QBSは考えています。



教授
吉村 洋一
実務家教員

企業財務
企業価値創造とM&A



准教授
広垣 光紀

マーケティング戦略
国際マーケティング



准教授
平野 琢

企業倫理
経営リスクマネジメント

経営者への階段を駆け上がる： 意思決定の武器としてのファイナンス実践論

企業価値の最大化——経営者の使命の核心です。本講義では、投資家と経営者双方の視点から得た洞察を共有します。プライベートエクイティの役割、M&Aの舞台裏に加え、コーポレートファイナンスを意思決定の武器として活用する方法を学びます。財務戦略、資本配分、企業価値評価など、実務に直結するファイナンススキルを身につけ、データに基づく経営判断力を養います。九州大学ビジネス・スクールでの学びを通じ、社会により大きなインパクトを与える人材へと成長しましょう。共に価値創造の真髄に迫り、ビジネス最前線で活躍できる力を培います。

マーケティングの理論と実践

マーケティングとは、企業が継続的に利益を上げ、ビジネスを続けられるような「売れる仕組みづくり」を考える活動です。競合他社がひしめき合い、市場に類似商品があふれる中で、どうしたら顧客に自社の商品やサービスを選んでもらえるでしょうか？ また、限られた予算や時間のもとで売り上げを伸ばすためには、どんな工夫が必要なのでしょうか？ 講義では、マーケティングの最新の学術的知見やケーススタディをもとに、市場で生き残るための実践的な問題解決能力を身につけていきます。

リスクマネジメントの本質を学ぶ

昨今の企業不祥事や産業事故の事例は、経営における適切なリスクマネジメントが企業の持続的な成長に不可欠であることを物語っています。しかし、「リスクマネジメント」という概念は学際的、多義的に用いられており、その本質を捉えることはなかなか難しいところです。講義では、経営学にかぎらず、哲学、工学、心理学など学際的な理論を学び、更に理論を実務課題に引き付けることにより「リスクマネジメント」の本質に迫っていきます。受講生にとって講義が、溢れるモデルや手法に振り回されない、本質を備えた「リスクマネジメント」を学ぶ場となれたら嬉しいです。



Faculty Introduction

総合大学の強みを活かした教授陣



教授
鈴木 右文

異文化
コミュニケーション

異文化サバイバルの コミュニケーション能力を

授業は英文講読と英語による議論が柱です。講読のテーマは年により、日本企業関係か異文化接触関係ですが、今後も幅を広げようと考えております。議論のテーマはビジネスに関係した身近な話題から政策のような大きなものまで取扱います。いずれにせよ国際語である英語力を伸ばし、異文化対応力を養成することが目的です。交換留学生の方が多く参加することもあり、国際的な環境で議論が展開されるため、異文化コミュニケーションの実践を望む方に最適です。



教授
安田 聡子

産業と技術

オープン・イノベーション 成功の鍵は戦略と政策

研究開発のスピードを加速させながら、新製品の普及を狙う戦略がオープン・イノベーションです。これに秀でた企業では、高度な戦略に基づいて、技術開発プロジェクトを「競争領域」と「非競争領域」に切り分け、後者にかかわる社内知識は広く開放してオープン・イノベーションを進める一方で、「競争領域」では社内で開発を進めて差別化を実現しています。知的財産権制度、産学連携政策、高度人材に関する政策が、こうした戦略を支えています。このようなオープン・イノベーション戦略とそれを支える制度について、受講生とディスカッションしていきたいと思っています。



准教授
Britton
Elliott
BROOKS

英語によるビジネス・
コミュニケーション

日本企業の コミュニケーション戦略を学ぶ

ハワイで育ち、イングランドで教育を受けた後、現在は日本で働く中で、異文化コミュニケーションの必要性和難しさ、そしてそのコミュニケーションが、人々が共に働く上でいかに必要不可欠であるかを強く認識しています。私のクラスでは、いくつかの日本企業に焦点を当て、各社の発信するコーポレートメッセージを検証します。各社の発信する英語のミッションステートメントの分析を通して、グローバル化が益々進む世界で、これらの日本企業が進めるコミュニケーション戦略をどのように取り入れ、応用すれば良いのかを学びます。



准教授
福田 峻

産業と政策

企業活動に影響する政策の理解

現代の経済は市場メカニズムを基本として運営されていますが、実際には中央政府や地方政府によって様々な政策的介入が行われています。企業活動を展開する上で、こうした政策のメカニズムや実態を理解することが重要であると考えられます。「産業と政策」では、国や地域の産業構造の誘導やイノベーションの促進など、政策の理論と実態について解説するとともに、現在進行中の政策を事例として受講生とディスカッションすることで、理解を深めていきます。



准教授
原口 唯
実務家教員

価値創造演習
起業機会探索

越境から新しい価値を生み出せる

これからの価値創造には、企業、行政、地域など異なる領域を横断しながら、課題や機会を発見し、新たな価値を構想する力が求められます。大切なのは、発想の新しさだけでなく、多様な立場・多様な利害関係者との対話を通じて構想を磨き、実装への道筋まで整えることです。自分の専門や経験の枠を越え、他者と協働しながら価値を形にする実践力を養い、常に研鑽していく姿勢が求められます。変化の大きい時代において、組織や社会に新しい動きを生み出すための視点と行動力をともに鍛えましょう。

非常勤講師一覧(2026年度)

- 『戦略的人的資源管理』 藤村 まこと (福岡女学院大学 人間関係学部 准教授)
- 『プロジェクト・マネジメント』 大津留 榮佐久 (一般財団法人 OSTi 代表理事)
- 『管理会計』 飛田 努 (福岡大学 商学部 准教授)
- 『組織マネジメント』 鳥取部 真己 (北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授)、高橋 秀直 (北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 准教授)
- 『国際ロジスティクス』 星野 裕志 (中村学園大学 流通科学部 特任教授、九州大学 名誉教授)
- 『イノベーション・マネジメント』 永田 晃也 (北陸先端科学技術大学院大学 特任教授/副学長)
- 『先端技術分析』 草野 秀樹 (PwC コンサルティング合同会社 公共事業部シニアマネージャー)
- 『コーポレート・アントレプレナーシップ特論』 杉本 将隆 (株式会社電通コンサルティング 専務執行役員 シニアパートナー)

※2026年6月1日現在

Student Voice

学生の声

QBSでは2003年のスタート以来、修了生が938名、そして2026年4月現在91名の学生が学んでいます。「仕事のスキルアップを目指したい」「自分の可能性にチャレンジしたい」「人的ネットワークを広げたい」など、目標は様々ですが、みな自分を大きく成長させたいという志は同じです。修了生のQBSへの思いの一部をご紹介します。



QBSでの学びを実務に生かす

4期生

中西 裕二さん

中西裕二公認会計士・税理士事務所

私は、財務アドバイス業務や企業の常勤監査役などに携わったことから経営に大変興味があり、会計、財務の枠組みを越えて学びたいと考え入学しました。4期生の中では最高齢でした。遅すぎたかな、大変だなと思いましたが、先生方や様々な背景を持つ学生仲間との交流で学ぶことは多く、楽しく、あっという間の2年間でした。幅広い経営の考え方、スキルを学ぶにつれ、むしろ、本来の仕事である会計や財務が経営にいかに関与し、自信を持ち、自分の強みである会計、財務そして税務業務の質を高めることが、T字型の知識体系を構築出来、アドバイスに広がりが出ることで、お客様の満足という「手応え」を感じるようになりました。



実務の中では得られない知識を得ることができ、地元福岡で働きながら学べる

13期生

三重野 通和さん

春日市福祉事務所 地域共生部保護課

いつか通いたいと思っていたQBSに通う決意をようやくできたのが開校12年目のこと。QBSのことを詳しく知りたく、イブニングビジネススクールや説明会で、高田先生に相談したところ丁寧に対応していただき、ますます進学の意欲が湧きました。在学中は、定時で仕事を切り上げ、最前列で授業を受け、他の学生の凄さに圧倒され、寝る間も惜しんで、勉強し、大変ながらも期待どおりの2年間でした。アジアビジネスに力を注ぐQBSにせっかくなので通うのだからと、海外スタディツアーにも4回参加、また、留学生とも積極的に交流しました。修了後、同級生、同窓生との交流は継続し、今だに新たな知識を得る機会を継続しています。人は学びによって、自ずと変わるもの。ここまで、読んだ貴方は、まずは門戸を叩いてはいかがでしょうか。



100年時代という長い人生を生きるために

15期生

藤吉 由貴さん

ファイナンシャルプランナーCFP®

1級FP技能士、

1級DC(確定拠出年金)プランナー

人生という航海においては、無限の選択と岐路に立たされます。私は、この不確実な時代を生き抜くために、「代替不可能な専門性」を身に付けたいと考えてきました。FPとして多くの方と接する中で、「たった一度の人生をより良く生きる」鍵となる「健康寿命」の違いに関心を持つようになりました。そこで、プロジェクト論文では、「不確実性下の意思決定」理論である行動経済学を用いて、他者に代替できない「運動習慣」の個人差の要因を明らかにしようと試みました。在学当時は生成AI台頭の前でしたが、「代替性」という観点から物事の本質を問いつけた経験は、AI時代における自らの強みを再認識する糧となりました。QBSでの学びを通じ、たとえ地図に無くても前進できる判断力という「人生のコンパス」を得ることができたと感じています。また、自分に焦点を絞った仕事観や人生観は、社会貢献を含めて人生をデザインする価値観へと変化しました。心の底から語り合うのが難しい時代に、共にワクワクし、忌憚のない意見を交わせる恩師や友に出会えたことは、私にとってかけがえのない宝物です。



QBSでMBAを修得する意義

17期生
足立 穂則さん

国立大学法人九州工業大学
社会実装本部未来思考実証センター

どこの大学でMBAを修得しようか迷っていますか？私は断然、QBSでの修得をお勧めします。その理由は、九州大学が総合大学であるからです。昨今、製品・サービスのライフサイクルが短縮化し、企業では新規事業創出への取組みが急務となっていますが、新規事業の芽は都合よく見つかるものではありません。でも、九州大学は長期にわたり取り組んできた多様な研究成果を有し、それら研究成果の事業化を検討する講義があり、新規事業創出の過程を体感できるのも魅力のひとつです。なお、私は修了後もご縁があり、新規事業創出に向け、九州大・農学部との共同研究を着手しました。単なるMBA習得を超えた学びの機会があるのが、総合大学であるQBSの強みです。



QBSでの学びという栄養剤

19期生
鬼崎 美緒さん

株式会社FCCテクノ

働きながらビジネススクールに通うということは、想像以上に大変なことだと分かっていました。それでも2年前、私は好奇心と、今しかないという直感で、QBSへやってきました。仕事を終わらせて講義に向かう時は、ヘトヘトなので「今からまた講義か…」という気持ちの日も、正直ありました。しかし不思議なことに、講義が終わる頃には疲れなんてすっかり忘れて、イキイキとした気持ちになるのです。これが『QBSでの学びという栄養剤』です。私は日々の講義や学生会会長という立場を通して、様々な知識を吸収し、仲間とともに色々な経験をしました。大変でしたが人生にメリハリが付き、本当に楽しかったです。この経験を今後どう活かすかは模索中ですが、あの時の直感を信じて良かったと心から、今思っています。



視野を広げ、自信を育んだQBSでの経験

20期生
今村 貴子さん

医療法人明楽会 くまクリニック

診療所経営を学ぶため、経営学を体系的に学べるMBAに関心を持ち、QBSへの入学を決めました。医療業界以外の知識が乏しく、講義についていけないのか不安もありましたが、「QBSのMBAは団体戦！」という同期の言葉に支えられ、仲間と助け合いながら充実した2年間を過ごすことができました。経験豊かな素晴らしい先生方や、年齢や職業、国籍を超えた多様な仲間との交流によって、私の視野と人脈は広がり、診療所経営に向き合う覚悟と自信が芽生えました。QBSのアットホームな雰囲気と充実した学びの環境は、私の価値観を大きく変え、これからの人生に新たな彩りをもたらしてくれました。次にこの経験を語るのはあなたかもしれません。ぜひQBSであなたの未来を切り拓いてみませんか。

修了後も協働する人的ネットワーク

QANの紹介

一般社団法人QBSアラムナイネットワーク(QAN)は、QBS修了生を中心としたコミュニティ組織です。2006年3月に任意団体として設立され、2019年4月1日に一般社団法人化いたしました。活性度の高いネットワークは、すべてのステークホルダーに対して直接的・間接的な価値をもたらす重要な基盤であると考えています。今後も増え続けるQBS修了生を有機的につなぐことで、会員はもとより、地域社会およびQBSに対してさらなる付加価値を創出してまいります。



QAN会長のご挨拶

QANは、QBS修了生によって構成されるアラムナイ組織であり、現在では850名を超えるネットワークへと広がっています。

QBSの大きな魅力は、質の高いカリキュラムに加え、そこで出会う「人財」にあります。九州大学という環境に集う多様で優秀な仲間と切磋琢磨しながら築く関係は、修了後も続くかけがえのない財産となります。この「人財ネットワーク」は、皆様のキャリアやビジネスにおいて大きな価値をもたらすはずです。

QANでは、講演会や勉強会、懇親会などを通じて、こうしたつながりをさらに広げ、深める機会を提供しています。また、九州大学の教員陣との交流に加え、世代や地域を越えたネットワークも活発に広がっており、近年では国内外へと展開が進んでいます。

ご自身の成長に真剣に向き合い、より高い視座を求めている皆様にとって、QBSは非常に魅力的な選択肢です。そして、その先にはQANという継続的なネットワークがあることも、ぜひ知っていただければと思います。

皆様とQBS、そしてQANでお会いできることを楽しみにしております。



QAN会長 神谷 誠(QBS18期)/株式会社スタッフエージェント 代表取締役
2026年5月

2026年度 時間割

前期

注) □は必修科目、*印は英語による講義、★は4学期制科目

期間	時間	月	火	博多駅		金	時間	土 伊 都	
前期 ／ 春学期	I 限 18:30 ～ 20:00	ミクロ経済学 現実の社会やビジネスの場面で遭遇する様々な現象を、経済学的に理解・分析するための基本能力を養う	生産管理 モノづくり企業の製品・生産戦略の全体構造と生産システムの基本特性を学ぶ	ビジネス統計 ビジネス統計の基礎的な概念およびその活用を具体的な方法に則して学ぶ	リーダーシップ論 学術理論と受講生の皆様の実務経験を結合し、独自のリーダーシップの持論を作り上げる	国際経営 国際経営の理論やフレームワークの理解と、ケースを用いたグループワークの実践で実践力を醸成する	I 限 8:40 ～ 10:10		
		管理会計 本講義は管理会計の基礎的な理論と技法の習得を目的とし、その理論や技法を企業内でいかに適用するかを思考しながら理解を深めることをねらいとする	産業と政策 産業に関わる政策の理論と実態を理解した上で、具体的なケースを対象に議論を行う		産業と技術 技術と制度の関係を習得し、第4次産業革命が産業や企業経営に及ぼす影響を深く学ぶ		ベンチャー企業★ 多面的な課題に接近し、ベンチャー企業の創造と成長に必要な論理を学ぶ	II 限 10:30 ～ 12:00	コーポレートガバナンスと監査 経営者の視点から、良い経営を実現するために必要な理論・制度・視座を学ぶ
	II 限 20:10 ～ 21:40	アカウンティング キャッシュ・フローと損益計算書、バランスシートとの相互関係を学ぶ	マーケティング戦略 マーケティングの基本知識から始まり、消費者行動、製品開発からマーケティング・リサーチに至る、マーケティングに関する理論と戦略について学ぶ	英語によるビジネス・コミュニケーション* ビジネスに用いられる言い回しや交渉時の意思表示等、実践的なビジネス英語を学ぶ	企業財務 投資判断と企業価値最大化のための実践的な財務理論と分析スキルを体系的に習得する		III 限 13:00 ～ 14:30	ビジネス法務 企業の経営・管理に不可欠な法的知識の基礎、最先端の企業取引の実例を学ぶ	
							IV 限 14:50 ～ 16:20		2コマ連続

2コマ連続

期間	時間	月	火	博多駅		金	時間	土 伊 都	
前期 ／ 夏学期	I 限 18:30 ～ 20:00	ミクロ経済学 現実の社会やビジネスの場面で遭遇する様々な現象を、経済学的に理解・分析するための基本能力を養う	生産管理 モノづくり企業の製品・生産戦略の全体構造と生産システムの基本特性を学ぶ	ビジネス統計 ビジネス統計の基礎的な概念およびその活用を具体的な方法に則して学ぶ	リーダーシップ論 学術理論と受講生の皆様の実務経験を結合し、独自のリーダーシップの持論を作り上げる	国際経営 国際経営の理論やフレームワークの理解と、ケースを用いたグループワークの実践で実践力を醸成する	I 限 8:40 ～ 10:10		
		管理会計 本講義は管理会計の基礎的な理論と技法の習得を目的とし、その理論や技法を企業内でいかに適用するかを思考しながら理解を深めることをねらいとする	産業と政策 産業に関わる政策の理論と実態を理解した上で、具体的なケースを対象に議論を行う		産業と技術 技術と制度の関係を習得し、第4次産業革命が産業や企業経営に及ぼす影響を深く学ぶ		ビジネスにおける競争優位性特論★ 経営において競争優位の源泉となる中核的な能力や資源に着目し、その形成や活用手法を学ぶ	II 限 10:30 ～ 12:00	コーポレートガバナンスと監査 経営者の視点から、良い経営を実現するために必要な理論・制度・視座を学ぶ
	II 限 20:10 ～ 21:40	アカウンティング キャッシュ・フローと損益計算書、バランスシートとの相互関係を学ぶ	マーケティング戦略 マーケティングの基本知識から始まり、消費者行動、製品開発からマーケティング・リサーチに至る、マーケティングに関する理論と戦略について学ぶ	英語によるビジネス・コミュニケーション* ビジネスに用いられる言い回しや交渉時の意思表示等、実践的なビジネス英語を学ぶ	企業財務 企業財務の基本理念を学び、実務適用の際の問題点、解決方法を検討する		III 限 13:00 ～ 14:30	ビジネス法務 企業の経営・管理に不可欠な法的知識の基礎、最先端の企業取引の実例を学ぶ	リサーチ・スキル 受講者の調査関心を起点に、調査可能な問いへ翻訳し、意味ある結果を得るための調査デザインと手法選択、根拠の見極めを実践的に学ぶ
							IV 限 14:50 ～ 16:20		2コマ連続

2コマ連続

連携講座(経済学府における開講科目)

★4学期制科目 春学期「ベンチャー企業」(金曜1,2限)

夏学期「ビジネスにおける競争優位性特論」(金曜1,2限)

アジア多国籍企業* 前期水曜日・3-4限

夏季集中講義(前期集中)による開講予定科目

企業倫理 8/10, 8/17, 8/24, 8/28, 8/31, 9/7, 9/14, 9/28	リーダーシップキャンブ 9/5, 9/6	財務会計 9/12, 9/26	イノベーションマネジメント 8/6, 8/9, 8/21, 8/22, 8/23
---	-------------------------	--------------------	---

後期

注) □ は必修科目、*印は英語による講義、★は4学期制科目

期間	時間	月	火	水	木	金	
		博多駅					
後期 / 秋学期	I 限 18:30 ~ 20:00	アジアの産業と企業*	企業価値創造とM&A*	異文化コミュニケーション* (英語によるビジネストピックス) 英語によるコミュニケーション能力を習得し、自分の意志の積極的表現法を実践的に学ぶ		組織行動	
			国際ロジスティクス*			企業戦略	
	II 限 20:10 ~ 21:40	戦略的的人資源管理	組織マネジメント	先端技術分析 (PwC寄附講義)	マネジメント 演習 I-1* (修了生寄附講義)	国際マーケティング*	プロジェクト・マネジメント** 新事業を創出するコトは戦略的な課題であり、顧客価値を提供し続ける実践的手法を講術

時間	土	
	伊	都
I 限 8:40 ~ 10:10		
II 限 10:30 ~ 12:00	マネジメント・コントロール*	プロジェクト演習
III 限 13:00 ~ 14:30	アジア・ビジネス戦略*	
IV 限 14:50 ~ 16:20	Intellectual Property Law in Practice*	産学連携マネジメント
V 限 16:40 ~ 18:10		

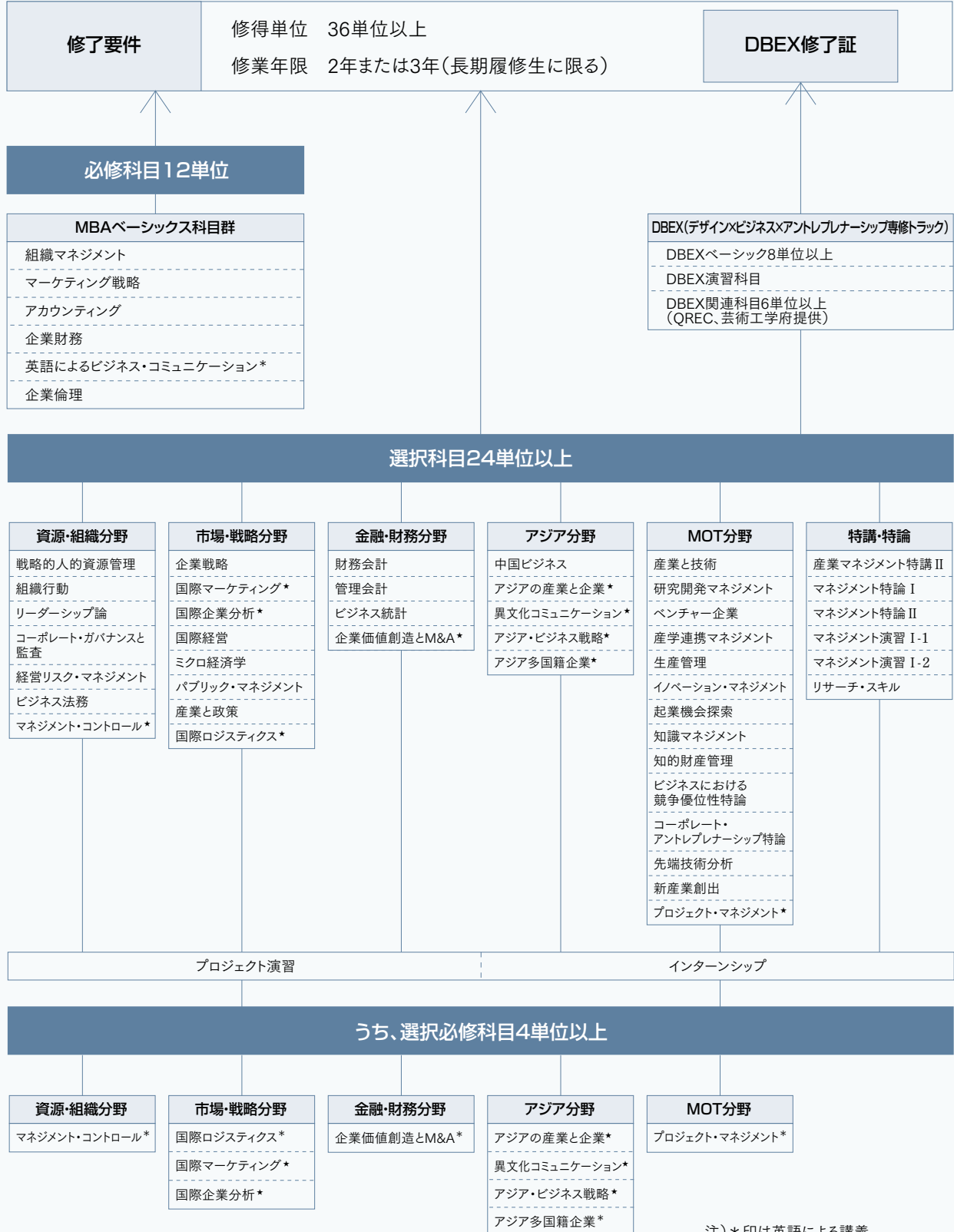
期間	時間	月	火	水	木	金	
		博多駅					
後期 / 冬学期	I 限 18:30 ~ 20:00	アジアの産業と企業*	企業価値創造とM&A*	異文化コミュニケーション* (英語によるビジネストピックス) 英語によるコミュニケーション能力を習得し、自分の意志の積極的表現法を実践的に学ぶ		組織行動	
			国際ロジスティクス*			企業戦略	
	II 限 20:10 ~ 21:40	戦略的的人資源管理	組織マネジメント	先端技術分析 (PwC寄附講義)	マネジメント 演習 I-1 (修了生寄附講義)	国際マーケティング*	コーポレート・アントレプレナーシップ特論* 社内起業および組織内におけるベンチャー・キャピタル型新規事業投資に必要な基礎知識を講義やケーススタディを通して学ぶ

時間	土	
	伊	都
I 限 8:40 ~ 10:10		
II 限 10:30 ~ 12:00	マネジメント・コントロール*	プロジェクト演習
III 限 13:00 ~ 14:30	アジア・ビジネス戦略*	
IV 限 14:50 ~ 16:20	Intellectual Property Law in Practice*	産学連携マネジメント
V 限 16:40 ~ 18:10		

★4学期制科目 秋学期「プロジェクト・マネジメント」(金曜1,2限)
冬学期「コーポレート・アントレプレナーシップ特論」(金曜1,2限)

Courses and Completion Requirements

開講科目と修了要件



注) *印は英語による講義

★英語での講義のみ選択必修科目

学位

経営修士(専門職)

MBA: Master of Business Administration

学費(2026年度額)

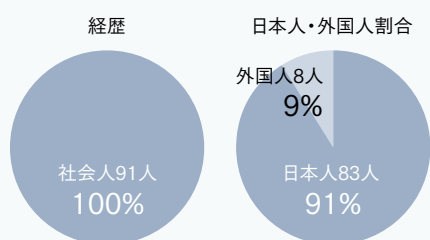
入学料	年間授業料
282,000円	535,800円

※予定額であり、改定の場合、新たな差額が適用されます。

募集定員

45名(1学年)

在校生の内訳(2026年4月現在)



九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン



QBSホームページ・Facebook・X

<https://qbs.kyushu-u.ac.jp>

<https://www.facebook.com/QBS.MBA>

<https://x.com/Qbsofficial>

QBS公式名称

九州大学大学院経済学府
産業マネジメント専攻(専門職大学院)

The Department of Business and
Technology Management
Graduate School of Economics,
Kyushu University

アクセス

◎九州大学伊都キャンパス
JR筑肥線/九大学研都市駅から昭和バス
昭和バス/九大イーストゾーン
西鉄バス/九大ビッグオレンジ

◎九州大学博多駅教室
JR博多シティ9階・10階



九州大学

KYUSHU UNIVERSITY

大学院経済学府

産業マネジメント専攻

(九州大学ビジネススクール : QBS)